

3. 阿蘇くじゅう国立公園の概要

1) 阿蘇くじゅう国立公園の指定と経緯

阿蘇くじゅう国立公園は、昭和9年12月4日、阿寒、大雪山、日光および中部山岳国立公園とともに、阿蘇国立公園として誕生しました。昭和28年の区域拡張(鶴見岳周辺)、昭和31年の区域削減(高崎山を瀬戸内海国立公園に編入)を経て、昭和61年に現在の名称である阿蘇くじゅう国立公園に改称されました。

阿蘇くじゅう国立公園は、熊本、大分の両県にまたがり、関係市町村は2市12町6村(*)で、阿蘇地域(熊本県)、くじゅう・由布鶴見地域(大分県)に大別されます。

2) 阿蘇地域の概要



阿蘇くじゅう国立公園の阿蘇地域は、世界最大級のカルデラをもつ阿蘇火山を中心にその裾野に広がる草原地域です。

火の国熊本のシンボルとして親しまれている阿蘇は、中岳・高岳・根子岳・杵島岳・烏帽子岳からなる阿蘇五岳を中心に、東西18Km、南北25Km、周囲128Kmにおよぶ世界最大級のカルデラと、これを取りまく広大な外輪山から成り立っています。

阿蘇郡12町村(*)の面積は約1,200平方キロメートル、人口は約80,000人で、

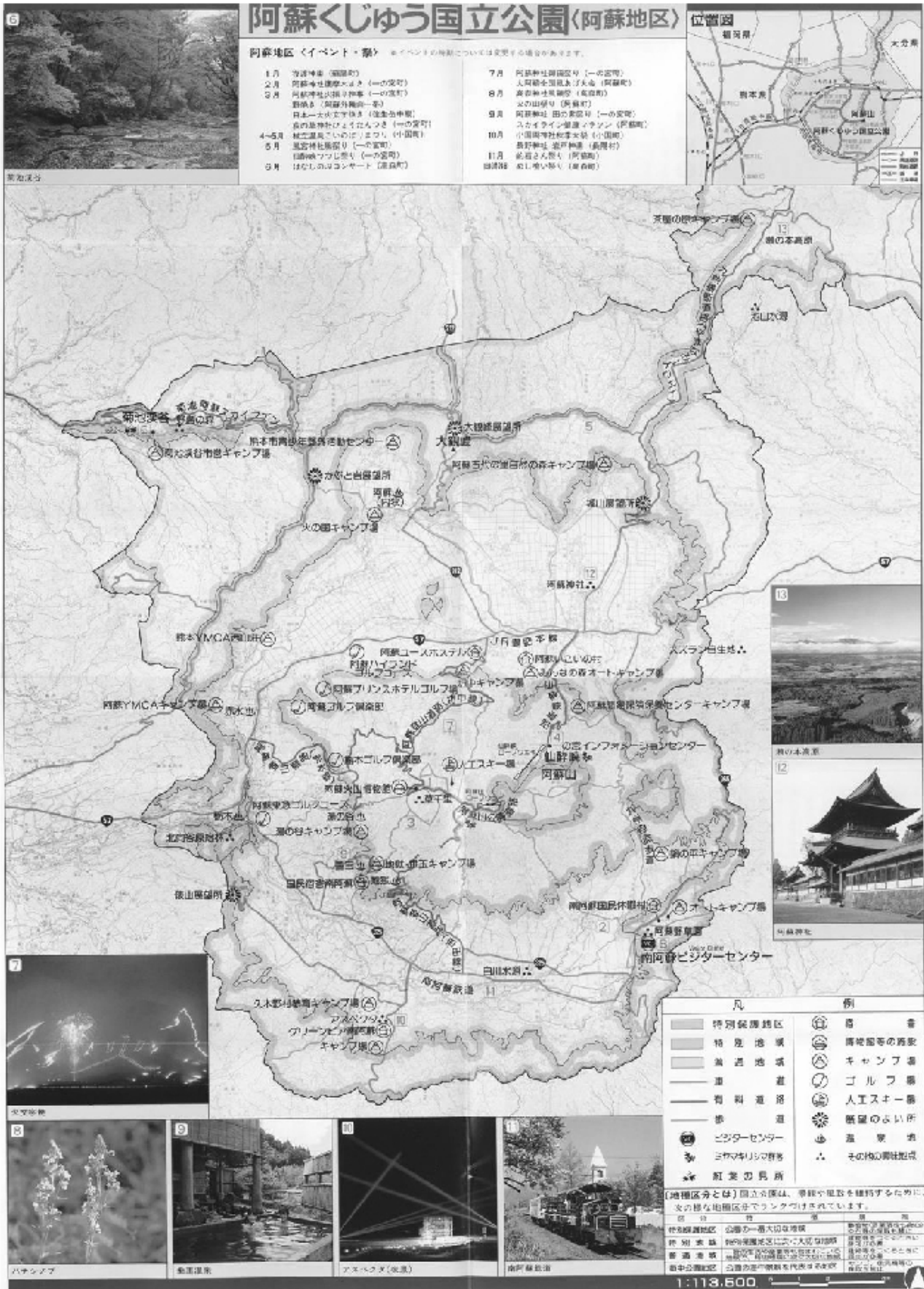
農林牧畜業と観光を主産業としています。

豊かな自然と素晴らしい景観を誇り、大陸と陸続きであったことを示す貴重な植物も見られ、動植物の宝庫としても知られています。

(*) データは、市町村合併が行われる前の平成17年2月1日現在のものを使用しています。

標高	300m(立野火口瀬)~1,592m(高岳)
地形	阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地域は、世界最大級のカルデラを持つ阿蘇火山を中心とした地域であり、阿蘇五岳を中心に構成される中央火口丘と、その周囲に広がる阿蘇谷及び南郷谷からなる火口原、さらにそれを取り囲む外輪山によって構成されています。
気候	阿蘇地域はやや冷涼で降水量の多い地域です。 年平均気温(推定) 標高500m前後(火口原):12、標高1000m以上(中央火口丘):10以下 年間降水量:ほぼ全域が2,500mmを超える(中央火口丘では3,000mmを超える)
植物	阿蘇地域の植生は、大きく森林、火山荒原、草原の3つに大別されます。そのうち草原が最も広大な面積を占めています。植物の分布種は約1600種で、熊本県内分布種の約70%を占め、また草原には、うち600種が生育しています。 春の花・・・サクラソウ、キスミレ、ハルリンドウ、オキナグサ、オカオグルマなど 夏の花・・・ユウスゲ、ハナシノブ、ヤツシロソウ、ツクシマツモト、カワラナデシコなど 秋の花・・・ヒゴタイ、リンドウ、アキノキリンソウ、マツムシソウ、ヤマラッキョウなど
動物	動物・・・シカやキツネ、タヌキ、ノウサギ、ハタネズミなどが見られます。 鳥類・・・草原の鳥が多く、ホオジロ、ホオアカ、セッカ、コジュリンなど。熊本県内で記録されている約300種の半数近くのもが確認されています。 昆虫類・・・熊本県産のチョウ類130種のうち105種のチョウが記録されています。また、阿蘇の草原には牛馬の糞を食べる糞虫類多く見られ、ダイコクコガネなど、30種以上が生息しています。

■阿蘇くじゅう国立公園 阿蘇地域の公園区域



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平16給視、第35号)